

感染症・予防接種レター (第36号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会委員長 加藤達夫

予防接種・感染症委員会

委員長 加藤 達夫 副委員長 岡田 賢司 庵原 俊昭 宇加江 進 古賀 伸子
住友真佐美 多屋 馨子 馬場 宏一 三田村敬子

麻しん・風しん混合 (MR) ワクチン 2 期接種率向上のために

背 景

国立感染症研究所感染症情報センターは昨年10月1日時点の全国の麻しん・風しん混合 (MR) ワクチン 2 期接種率を全国1,467の市町村 (特別区) から返信 (回収率: 79.6%) された結果を公表した。MR ワクチン 2 期接種率は12.1%~42.2%であり40%以上の県は4県, 10%台の県が3県と低迷していた。大きな期待をもって昨年6月以降接種が開始された MR ワクチン 2 期接種の安全性と有効性を多くの小児保健関係者に理解していただくことが接種率向上の一助と考え、現時点での2期接種の安全性と有効性を研究班報告書 (主任研究者: 加藤達夫) からまとめた。

対象と方法

平成19年4月小学校入学予定の5~7歳児のうち, (1)生後24か月まで麻しんおよび風しんワクチン接種を受けた児, (2)生後24か月以降で麻しんおよび, または風しんワクチン接種を受けた児を対象とした。

(1)安全性の確認は, 保護者に同意書で同意を得たうえで健康状況調査票により接種後の健康状態の変化を調査する。(2)有効性の確認は, 接種前後で採血を行い, 血清抗体価を測定し, 追加効果を検証する。

倫理面への配慮は, 倫理委員会での議を経ること, および調査票回収時は接種児の氏名などを特定できないように配慮した。

結 果

1 安全性

接種後の発熱などの全身反応および局所反応の発生率を評価した。

- (1) 発熱者は, 210人中31人認められた。経過中2回以上の発熱者を含め発熱回数は39回であった。このうち, MR ワクチンとの関連性が否定できない発熱 (接種後4~12日) 回数は, 210例中12回 (5.7%) 認められた。
- (2) 同じく関連が否定できない発疹は3例 (1.4%), リンパ節腫脹3例 (1.4%), 関節痛は1例 (0.5%) であった。
- (3) 接種後3日以内に出現した局所の発赤, 腫脹を副反応として集計した。局所の発赤は37例 (17.6%), 腫脹は27例 (12.7%) に認めた。発赤は94.6%, 腫脹85.2%は軽度 (直径1~5 cm 未満) であった。

2 有用性

接種前後で抗体測定できた142例で, 麻しんおよび風しん EIA-IgG 抗体価を評価した。

- (1) MR 2 期接種前に抗体が陰性であった児は麻しん11例 (7.7%), 風しん12例 (8.5%) であった。2 期接種により全例 EIA-IgG 抗体は陽転した。
- (2) 2 倍以上 EIA-IgG 抗体価が上昇した割合は, 麻しんで142例中85例 (59.9%), 風しんで142例中70例 (49.3%) であった。

参考のため前年度の麻しん中和抗体価および風しん HI 抗体価の変動を示す。麻しん中和抗体価の有意上昇を認めた幼児は42.0%, 風しん HI 抗体価有意上昇を認めた幼児は34.0%であ

り、当初の予想以上に追加効果があったと考えられる。

接種率向上のために

2期の接種率は2月、3月には多くの小児保健関係者の努力のおかげで各地で上昇してきているが、まだ十分ではないと考えられる。2期

接種をしなかった理由が多かったのは、1回で十分と思っていた、2回必要であることを知らなかった、アレルギーがあるため副反応が心配などであった。2期接種の安全性と有用性を多くの小児保健関係者に理解いただき、広報などを通じて保護者の皆様へお知らせください。

(文責：岡田賢司)